
とある世界の英雄の叫び

旅人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある世界の英雄の叫び

【Nコード】

N5437R

【作者名】

旅人

【あらすじ】

とある世界にきた凡人が、英雄に祭り上げられる話。

第一声 心の叫喚の声

見渡す限り緑の絨毯。

夕暮れの空も合わせて、まるで絵から出て来たような風景だ。心地のいい風が体を包む。

自分を除いて誰もいないし、何もない。

いや、背後には城壁のようなものがあって。遙か前方には山もある。

そして俺は叫んだ。

「まじで帰りてえええええええ！」

返事をしてくれたのは、やまびこだけだった。

??????????

赤狩あかがり 魁かい

それが俺の名前。いたってフツの高校二年。クラスでは、他を引っ張ることなく、おちよくられることなく、得意なことなく、といった感じ。いわゆる中堅、つまり平民。

その日。俺は、学校行ってた。

んで紆余曲折いろいろあって、帰って来た。いわゆる日常ってやつ。おれは、ドア開けた。

したら、見たことない場所に来てたってわけ。

「・・・は？」

つつぶやいたときには、ドアが消えてて、俺は変なポーズで固ま
ってた。

あとは簡単な算数の問題。

これは夢だ。

らいまえ。

何も起きねえし、変な夢。
後。

あの城になんかありそう。

三分後。

結構遠いな。

後。

つつ、疲れた。休もう。

後。

ZZZ・・・。

はっ！！

つてか夢で寝るとかねえしっ
後。

つてか夢じゃなくね？

十秒後。

痛っ

の行為が五秒後。

ッ夢じゃねえ？！

んじゃここ何処？

たのが四秒後。

まさか俺迷子？

が五秒後。

携帯…圏外っ！？

と思ったのが二時間く

と思ったのがその五分

と歩き出したのがその

と走り出したのが五分

と座り込んだのが五分

が二分後。

が一時間後。

の一人突っ込みが二分

と疑問に思ったのが三

と頬をつねるお決まり

と驚愕したのが一秒後

とるつくあらうんどし

という衝撃の事実発覚

が五秒後。

・・・

なんか暗くなってる？
分後。

一分間思考回路停止。

と思ったのがさらに一

太陽沈みかけてるし！
のが五秒後。

と振り向いて日を見た

とりあえずあの城らしき所まで行こう。
後。

と走り出したのが五秒

遠いし〜！

と不平を漏らしたのが

五分後。

目から汗が出そうにな

もういや・・・

ったのが三分後。

一分後、マラソン開始

ちくしょおおお！

と焦ったのが十分後。

やべえ、日が暮れちまう！

と一人突っ込みver

てかどんだけ遠いんだよつ。

2が一分後。

とわずかな希望を見出

お、結構近づいて来た。

したのが五分後。

それから何分経ったかは計算をおまかせする。結構かった。

ともあれ俺は城壁についた

のだが、

「壁しかねえ・・・」

城壁はただただ城壁だった。

んで、俺は叫んだのさ。

帰りたい、と。

しかし何も起こらなかった。

とりあえずこの城壁の周りをぐるっとまわってみるか。

それにしても、ここは一体なんだろう。いきなり来たけど、いやまで、まずこの状況何？

何故この俺が訳の分からん場所を走り回らにやならんの。あれー。あれー。おかしいな！

ん？あれって道じゃね？

少し先になんか大きな砂利道があつて、そこを人やら馬車が行き交つていた。

人とか見てマジで安心した。いやもう、とりあえずここがどこか聞きたかった。

んで、とある商人っぽい風貌で金髪で顎髭の人に聞いてみた。その『おじさん』と『お兄さん』の中間な人は

「おやおや、あんたロクシスの町を知らねえのかい？田舎モンだな。ここは、冒険者やら、商人やらが集まるいい町さ。ついてきな！」
・・・超いい人だった。

町の門を通り過ぎると、洋風な石造りの家が建ち並んでいた。

なんか冒険者のな、あるいは戦士のな、はたまた魔術師的な、そういう格好の方が数多くいらつしゃった。てかそういうのしか居んかつた。・・・『ドラ○エ』とか『Fファン○ジー』最後の物語実写版的な。

「おいおい、はぐれんなよ」

我が恩人の名前は、リユーマというらしい。

「あんた、この町に何しに来たんだ？」

いや・・・自分でもわからん。

「いや、特に目的つてものがある訳じゃ・・・」

迷い混んだんすけど・・・と言おうとしたら

「そうか、働くならギルドに行くこつた。依頼をひとつこなせば、一日分くらいは稼げるさ」

いや聞けよ。

なるほど、この国にはギルドというものが存在するらしい。

つてゆうか、そんな国地球上になくね？

「あのー、日本って知ってますか？」

「ニッポン・・・？さあ、聞いたことねえな。食いもんか？」

嫌な予感しかない。

「いや、国の名前ですけど」

「国だつて？このアノニムスにや、リステイナ、ルンテール、コシユカ、ガンドレアの四大国を除いて極小の島国がいくつかあるだけだ。ニッポンなんて国の名前、聞いたことねえがどの辺にあるんだ？」

は？四大王国？

いやいや、ちょ、訳わからん。なに、え？どゆこと？ほわつつどう

ーゆーみーん？

??????????

「平仮名英語」を心で呟きながらも薄々感じてはいた。ここは、俺のいた世界とは全く異質だと。ただ、認めたくなかったんだ。しかし、どうやら俺は、異世界に来てしまったらしい。と

ええええええええええ！？

なにになになに？ドワイウコト？

・・・なんかもう無理

第一声 心の叫喚の声（後書き）

始まりました。

英雄とか、凡人には無理ですよ。やっぱり。
でも、

できるところまでやってやろうじゃないか。
てなわけでよろしく願いします。

第二声 失敗は人生の教師、金は欲の叫師（前書き）

人間は自分の欲しいと思う物を求めて世間を歩き回り、そして家庭にかえった時にそれを見出す。

ジョージ・ムア

第二声 失敗は人生の教師、金は欲の叫師

いま、一番したいことは？

と聞かれたら、迷わずにこう答える。

家に帰りたい

望む人は多くないかもしれないが、日本人のほとんどがそれをする
ことができる。

しかし、

俺こと赤狩魁^{あかがりかい}には、今現在それを実行することは叶わない。

もちろん、自宅がない訳じゃなく、両親、兄、妹、ネコがそろった
一般的な家族、家庭が俺にはある。

家族の仲はかなり良かった。父に本を買ってもらったり、母に服を
繕ってもらったり、兄にゲームを借りたり、妹に学生服の裾を繕っ
てもらったり、ネコと戯れたり、パソコンに向かってニコニコ微笑
んだり・・・とまあ、今思えばかなりかなり恵まれていた。

家はいつも暖かだった。

まぎれもなく、帰る場所だった。

まさに、

「家、LOVE!!」
だった。

そんなことはさておき、

俺は今、異世界にいる。

異世界というのは、まさに異世界。ド。クエ、えふえふ、テ。ルズ

的な世界である。

そして、俺は「何故かここにやってきた」という、ありがちすぎるパターンを身をもって体験中。ついでにこの世界についての知識は皆無。さらに、「頼れそうな人と出会う」という、ありがちすぎるパターンVer.2を現在体験中。

というわけで

家、帰りたい。

――――

「そーかあんた、異界の人だったのか!!」と我が恩人、金髪兄貴は言う。

「まあ、そうです」と俺は言う。

「どおりで、この世界のことを全然知らないわけだ」と我が恩人、金髪兄貴のリユーマは言う。

そしてこう続ける

「よっしゃ、俺がこの世界の事を教えてやんよ。こう見えても俺は行商人。結構詳しいんだぜ?」と、そーいや名前を聞いてなかったな」

「あかがり 魁赤狩魁です」

あかがりが名字で、かいが名前だと教えたら、「貴族なのか?」といわれた。前述の通り、恵まれた家庭ではあったがもちろん否定した。貴族無いし。

「じゃあカイ、この世界、アノニムスについておしえてやるぜ???

リユーマの説明はあまり上手なかった。というか寄り道のしまくりだったので省く。

この世界は、アノニムス。球形のくせに、北が寒く南が暑い。自転しているのかどうなのかわからんが一日の長さは地球とほぼ同じ、一年の長さも同じく365日（閏年あり。ちなみにアノニムスでは^{ガランダ}「記す年」という）。

六つの大陸があり、海がある。人間、獣人、魔人、魔族、精霊、その他生物大勢、がいる。何人かの神、魔神が存在し、天界、魔界へ行く事ができるが、行ったら現地人に殺される。逆に侵攻を受けることが多い。

この国はリステイナ。西の大陸にある王国。四つの大国のうちのひとつ。平和な国。

この町はロクシス。リステイナの南部にあり、王都に近くにある、物流の町。

聞く所によるとこんな感じ。

まあ、ゲームの世界っぽいね。

そんなこんなで説明終わり

「????どうだ、カイ？大体わかったか？」

うん。いらん話ばっかだったけども。必要事項は、全部俺がまとめました。

「ええ、大体わかりました」

「そーか、ま、とりあえず・・・ギルドだな。ギルド入るときやいろいろ便利だ。商売できるし、家を持てるし、その他にもいろいろ得だ」

「ギルド・・・ですか」

ゲームだ。

「ま、とりあえず行つてみな。この通りのつきあたりのあれだ。俺はこれから取引だから、この辺うろついてりやまた会えるだろ」

あれがギルドか……

いやでも、一人で入るのはいささか厳しいよな。
って、あれ？

振り向いたらリユーマはもういなかった。
 ので、怖いけど一人で行く事にした。

「ようこそ、ギルド・ロクシス支部へ」

入ったらすぐに、案内の人っぽい女の人に声をかけられた。受付的な場所へ進む。

「ここには初めて来る人ね？」 気安い話し方だ。

「あ、はい」

「んで、どんな用事？仕事ならどっさりあるけど……？」

「ええと、ギルドに入りに来たんですが……」

「新加入者ね。んじゃ、この紙に名前書いて」

紙を差し出された。いろいろ空欄があつて、いろいろ書いてあるのだが、

つ読めねええええええええええ！！

「・・・どうしたの？」と受付嬢は怪訝な顔をする。

どうする・・・記憶喪失？いやいや、それは無い。だめだ。んー、ニッポンなんて知らないだろうし・・・うん、こうしよう。

「えー、俺は、田舎から来た者でして、ろくな教養がなく、字が読めません。書けません」

「あら、そう。じゃあ、代わりに書いてあげるわ」

計画通り・・・

「ん？なんか言った？」

「いえ、何も」

「じゃあ、えっと、あなたの名前は？」

――――――――――

俺の目の前には、もんすたーがいた。リユーマの話に聞いたこの世界に存在する「その他生物大勢」である。

お初にお目にかかります。三頭犬様。

三つ首って間近に見ると、かなーりキモいですね。

なんでやねん！

受付嬢の話によると、どうやらギルドに加入するにはランクの取得が必要らしく、そのための試験としてモンスターと戦うらしい。

んで、作り物っぽい剣を渡され、このモンスターの前へ放り出された。

なんでやねん！

モンスターというのは、ヒトに「排除しなければ」と思わせる素質があると思う。なんと言うか、おぞましいのである。

しかし、平和ボケした現代日本人の一男子高校生である俺は、なかなか「殺し」を受け入れられない。

えー、殺すのー？まじでー？

とか思ってたなら、

「「GRRRR!」」と飛びついて来たので、

「うわっ!」とかわしたけど、

俺の学生服の裾は、ぼろぼろに引き裂かれた。

妹が繕ってくれたた部分だった・・・

あー、うん、もういいよね？ここ日本じゃないし、いいよね？殺してもいいよね？防衛だよな？過剰防衛とか、関係ないよね？

よし、殺そう。

「シネ、コルアアアアアア!」

と、与えられたレプリカの大剣を軽々と振り回し、三頭犬様を血の海に返した。

なんか、驚いた目で見られた。

ちなみに俺はシスコンではない。ないといったらない。ないからそんな目で見ないで。

――――
俺はギルドに入った。

なんかギルドにはランクがあるらしく、俺のランクは F・・・。
さらに聞く所によると、新人はランク F か G の二択らしい。
ギルドでは、依頼を受けることができる。その報酬で稼ぐのだ。レ
ベルの高い依頼を受ければ、ランクがあがり、それなりの権限を
もつようになる。

「はい、じゃあ早速なにか以来受ける？」

「あ、そうします」

「加入試験からみて、討伐系の依頼とか向いてる気がするけど、ど
うかな？」

「はあ・・・」

なんか、討伐とかいうおぞましい単語が聞こえたけど、まあ勧めて
くれるなら。

「じゃあそれで」

「おっけー。手続き完了！誰か気が合いそうなパーティーメンバー
集めたら、楽になるよ」

パーティー面子あつめ、ねえ。

試験に使った大剣を貰い受け、お礼を言って、ギルドを出た。

――――
さっき、リユーマと別れた所へ言ってみたが、リユーマはいなかつ
た。

リユーマ経由で人を集めようと思ったのだが、しかたがねえな。それらしい酒場とかでも、回ってみるか？

と思ったとき、お好み焼きっぽい匂いがする屋台が目についた。懐かしい匂いだ。

あ。俺、金ねーんだ。

ちつくしよ。あー早く仲間集めて、討伐いこう。

どこいこう？

第二声 失敗は人生の教師、金は欲の叫師（後書き）

つづきまーす。たぶん、

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5437r/>

とある世界の英雄の叫び

2011年10月7日22時28分発行